

2023 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	環境リハビリテーション科学研究会
活動テーマ	ハイブリッド講演システムを活用したコロナ禍における新たな災害時肢体不自由児者支援方法の検討



私達は「ハイブリッド講演システムを活用したコロナ禍における新たな災害時肢体不自由児者支援方法の検討」をテーマとして 2023 年度活動を実施した。目的は災害時肢体不自由児者避難方法の技術を検討し普及することや、アフターコロナの障がい者の避難の最新情報を一般レベルで共有し周知することを目的として実施した。2023 年度は本研究会会議の継続的实施や講演会準備・運営、段ボールベッドの性能や活用方法を学び、障がい者や免疫力の低下した方などが避難する際のコロナや感染症に配慮した避難の方法などを検討した。講演会では段ボールベッド開発者の水谷様を招き講演をハイブリッドにて開催した。段ボールベッドは床面よりも暖かく、体温を保持することに優れており、床の埃や細菌から離れ、高さがあるため介助しやすく一般の避難者はもとより障がい者・介護者共にメリットのある物資であることをデータから学ぶことが出来た。また、今回の社会的意義としてハイブリッド講演会や情報共有を実施しただけでなく、講演会の内容やこれまでの活動の知見が能登半島地震の被災者に微力ながらお役に立てた点は大きな社会的意義であった。さらに、東北・熊本・能登半島地震等の経験を人口の多いエリアにおける災害予測の状況と照らし合わせた際、都市部は人口が多いため避難所は狭く、物資が行き届きにくく、障がい者とその家族への生活支援は専門家が来にくい可能性もあり、一般の方からの支援方法の検討が必須となることが明らかとなった。そして、重度障がいの方や認知症者とその家族などは一般の避難所になじみにくく、石川県では一部の障がい者の避難所への避難が保留となったことは一つの選択肢であり、今後の課題が明らかになった。